学校現場における心理臨床的関わりについての実践的研究
── 新しい学びと育ちの場でのとりくみを通じて ──

1．取り組みの概略

本コロキアムでは、学校現場において心理臨床家はどのような関わりを為し得るのかということについて、各々の体験を報告したり、児童・生徒との関わりに特色の見られる学校を訪問したり、あるいは現場の教員との意見交換会を行ったりと、いくつかの取り組みを通じて検討を続けてきた。これらはいずれも、参加者の体験に重点を置いた取り組みである。以下、それぞれの取り組みについて簡単に紹介をする。

2．現場体験報告

まず私たちのコロキアムでは、月１回程度のペースでメンバーが集まり、スクールカウンセラー、相談員、教諭など、様々な立場から実践についての体験報告を行うという取り組みを継続的に行ってきている。そこで検討される内容は、学校現場で活動することに伴う様々な戸惑いの意味や、関わりをもった子どもに関する「見立て」まで、多岐にわたるものであった。

元々心理臨床学の中核をなす研究法として「事例研究」という実践に根ざした手法があるが、上述の現場体験報告に基づくディスカッションは、この「事例研究」に類する取り組みであるといえる。こうしたディスカッションを通じて体験の質を深めると共に、そこから新たに研究テーマが生起することにも繋がりうる。

3．北星学園余市高等学校への訪問

昨年度は不登校の児童・生徒への先進的な関わりをする学校に複数校訪問を行っており、それに続いて今年度は、北海道の北星学園余市高等学校に新たに訪問を行った。

訪問した2008年９月20日は折しも学園祭の開催日で、生き生きと過ごす生徒の様子を間近に見ることのできる大変貴重な機会となった。また、余市高等学校は民間が経営する寮で生徒が暮らすということが特色であり、訪問メンバーは実際に寮を訪問させてもらう機会も得た。生徒に真摯に向き合う実践を垣間見る中で、人と人とが向き合う中で信頼関係を育むことの大切さを、改めて学ぶことができたといえよう。

図１　北星学園余市高等学校

4．現場教員との交流会

そして2009年１月11日には、京都市近郊の学校で活動する人々を招いて、コロキアムメンバーとの意見交換会を行った（於京大会館）。当日はスクールカウンセラーや相談員といった心理の立場から学校に関わっている人のみならず、教諭、養護教諭として勤務している人からも参加を得た。

学校現場においてはそれぞれのスタッフが非常に忙しい中で子どもと関わっており、スタッフ間で意見交換をしたりすることが時間的にもエネルギー的にも困難であるという事情がある。そうした中、このような形で意見交換会の場を設けてお互いの交流を深めることができたのは、それぞれの体験を深め、新たな気づきや工夫を得ることに繋がったと考えられる。

図２　シンポジウムの様子

5．おわりに

いずれの取り組みにも共通していえることは、体験をし、そのことについて語り合い、そこでのディスカッションを通じて生まれてきた気づきが、それぞれの実践の糧となっていくという体験の在り方である。

今後継続した取り組みの中で、得られた成果を洗練させて言語化していくということも必要になると思われる。その際にも、個々のメンバーの体験を大切にし、そこを軸にしていくという姿勢を保持していきたい。

（文責：西嶋　雅樹）